

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	竹田市立南部小学校								教員
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	13
学級数	1	1	2	2	2	1	1	10	
児童数	40	32	51	53	47	40	(2)	263	

研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりに確かな学力をつける指導のあり方  
～国語・算数科を中心に、個に応じた学習指導の工夫改善を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- 1年生 国語、算数での少人数指導
  - ・入門期の学習で個人差が生じやすいので、一人ひとりの児童へのきめ細かな支援を行うため
- 4～6年生 算数
  - ・児童の理解に差が生じやすい学年なので、基礎・基本の確かな定着を図るため
- 3～6年生 理科
  - ・専科教員と担任とのTT指導によって、課題の把握や解決へ向けて個に応じた支援を行うため
- 5～6年生 音楽、図工、家庭科での交換授業（教科担任制）
  - ・3学級担任が得意分野の教科で専門性を生かした指導を行うため
- 全学年 ブックタイム、チャレンジタイム（国語、算数）
  - ・朝の読書活動やスキル中心の繰り返し学習によって、日常的な指導を行うため

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>研究テーマ 一人ひとりに確かな学力をつける指導のあり方 ～国語・算数科を中心に、個に応じた学習指導の工夫改善を通して～ 研究の見通し（研究仮説）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>一人ひとりのおもいや考えを生かし、個に応じた多様な学習形態や学習過程を工夫すれば、確かな学力を身につけた子どもが育つであろう。</p> </div> <p>研究の内容・方法 上記研究テーマ及び研究仮説の検証のために、本年度の研究の重点として次の3点を設定し研究を進めてきた。</p> <p>(1) 学習システムを活用した指導体制、指導方法についての研究 TT指導、少人数指導等の学習形態について、『学習システムの活用～個に応じた多様な学習形態』として分類整理した。授業研究では、主に単元の学習内容、学習活動、学習課題、理解や習熟の程度に応じて学習集団を効果的に構成し、個に応じたきめ細かな指導をするためにはどうしたらよいかを中心に研究してきた。</p> <p>1年算数「くり上がりのあるたしざん」 単元の学習計画を3つのステップに分け、それぞれのステップ終了時に診断テストを行い、理解や習熟の程度に応じたコース選択学習に取り組む。</p> <p>4年算数「三角形」 TT指導とコース選択学習を組み合わせ、課題別コースで学習したり、補充的な学習・発展的な学習に取り組む。</p> <p>5年算数「小数のかけ算」 TT指導を中心に個に応じた支援を行う。</p> <p>(2) 算数科で、確かな学力の定着を図る学習過程のあり方についての研究 『個を生かす算数科の学習過程（南部小プラン）』を構想し、それをもとに</p>
--------	--

授業研究に取り組んできた。この南部小プランは次の5つの構想をもとに構成した。

基礎・基本の定着  
 40分授業に対応した学習展開  
 つかむ 考える ふかめる まとめる の4段階の学習展開  
 それぞれの学習過程で子どもにつけたい算数の力  
 それぞれの学習過程で個を生かすための手立ての工夫

(3) 評価規準・評価基準に基づく目標に準拠した学習評価のあり方についての研究  
 目標の設定 診断的評価 形成的評価 総括的評価を進め、子ども一人ひとりの学習の様子を把握し、学習と評価を一体的に進めていくために、評価の観点となる評価規準・評価基準を明確にした授業研究に取り組んできた。

平成16年度

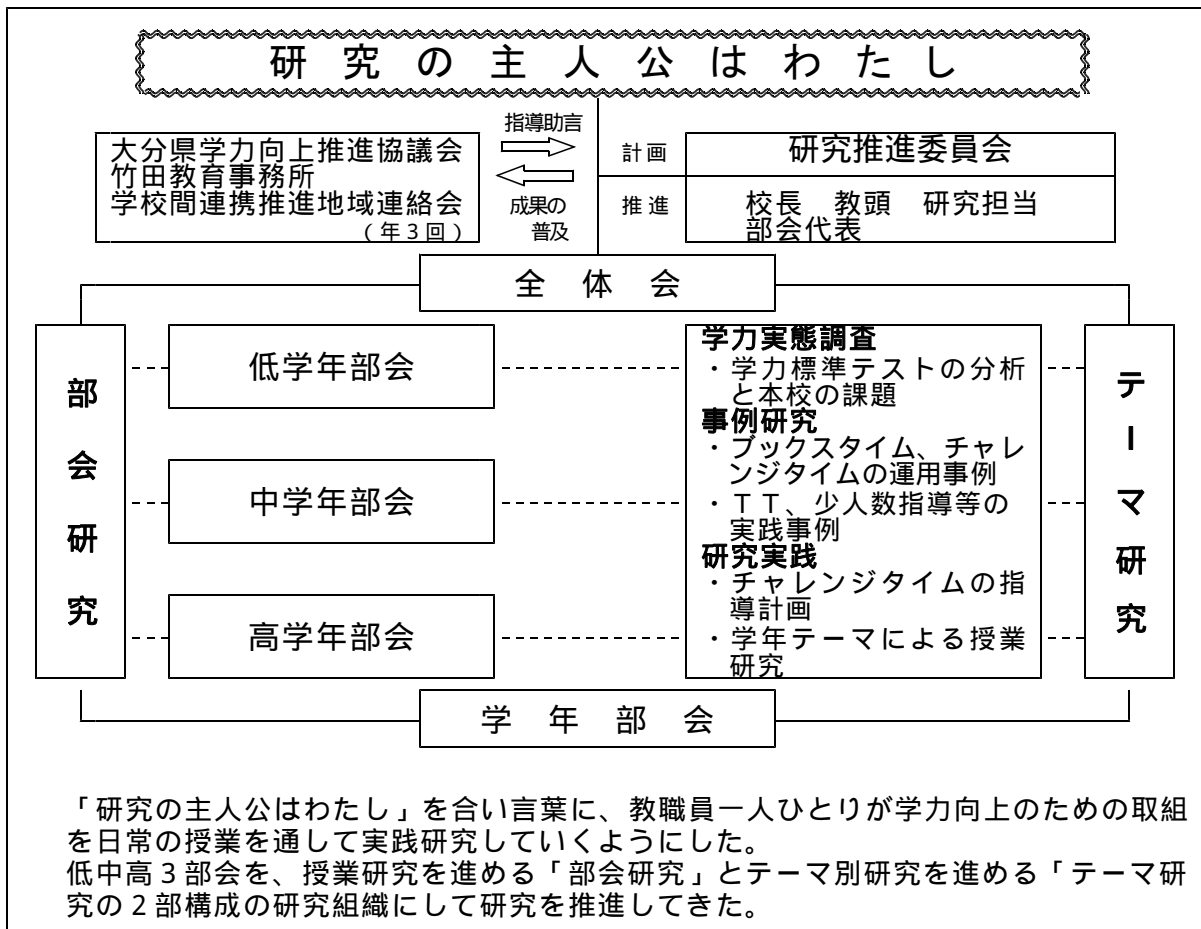
研究テーマ 本年度と同様  
 研究の見通し(研究仮説) 本年度と同様  
 研究の内容・方法  
 本年度の研究の重点を継承し、残された課題についての研究を深化させたい。

(1) 学習システムを活用した指導体制、指導方法についての研究  
 ・TT指導におけるT1T2の多様な役割分担やスキルの向上、単元学習での少人数指導の効果的な構成について

(2) 算数科で、確かな学力の定着を図る学習過程のあり方についての研究  
 ・学習過程の考える ふかめる 段階で「学ぶ力(思考力・判断力・表現力)」を育てるための学習活動や手立ての工夫について

(3) 評価規準・評価基準に基づく目標に準拠した学習評価のあり方についての研究  
 ・指導と評価の一体化のために、評価のための具体的な手だてを取り入れた学習評価のあり方について

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

児童の学習意欲を高め、理解を深める

昨年11月に実施した『学習に関する意識調査』（3～6年対象）の結果から、「勉強の内容がよくわかる」の設問に対して「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童は、少人数指導に関しては91%、TT指導に関しては88%であった。この結果からも、多くの児童が理解を深めることができたと感じていることが分かる。TT指導や少人数指導を取り入れた授業研究を行い、日常実践に生かしていくことによって、児童の学習意欲を高め、理解を深めることができた。

【少人数指導】勉強の内容がよくわかる ( % )

学年(人数)	よくあてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	まったくあてはまらない	合計
合計(182人)	35	56	9	0	100

【TT指導】勉強の内容がよくわかる ( % )

学年(人数)	よくあてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	まったくあてはまらない	合計
合計(182人)	51	37	11	1	100

基礎・基本の定着

基礎・基本の確実な定着のために、毎時間の導入段階で小テストを行い、理解が十分でない児童にはその都度個別指導をしていくようにした。また、終末段階では類似問題を解く時間を確保するようにした。そのため、時間内に前時の復習をし、本時の定着を図れるようにしたことで、より確かな学力を身につけさせることができた。

児童が「何を学んだのか」という視点からねらいや意図が明確な授業を展開

評価規準・評価基準を設定し評価の観点を明確にすることによって、これまで「何を教えるのか」という教える立場の教師の意図が優先されて、児童が「何を学んだのか」という点から授業を考える視点が弱かったが、児童の立場から授業を組み立てたり見直したりすることができるようになった。

2. 今後の課題

TT指導におけるT1T2の役割分担やスキルの向上、単元学習での少人数指導の効果的な構成

40分授業で学習のねらいに到達するための学習活動の効率化と学習過程の改善  
学習過程の考えるふかめる段階で「学ぶ力(思考力・判断力・表現力)」を育てるための学習活動や手立ての工夫  
自己評価、相互評価を取り入れた「ふりかえりカード」、座席表・個人カルテの活用、観点別評価一覧表の作成等、学習評価のための具体的な手だての導入

学力等把握のための学校としての取組

学力標準テストによる学力実態の把握

- ・昨年5月に、2～6年全児童を対象に学力標準テスト(NRT)を実施。
- ・その結果をもとに、学年ごとに学力実態の分析を行い、通過率の低い項目については重点的な指導を行っていくようにした。
- ・来年度5月に再テストを行い、学力向上の実績把握を行う予定。

学習に関する意識調査の実施

- ・昨年11月に、3～6年全児童を対象に『学習に関する意識調査』を実施。
- ・TT指導、少人数指導の学習形態の是非、学習への関心意欲について意識調査をし、指導に役立てた。
- ・2月末に再度実施の予定。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学力向上フロンティア事業報告会の開催

- 開催日 平成16年2月4日(水)
- 対象 竹田教育事務所、竹田市教育委員会、管内フロンティアスクール各校  
近隣の小中学校

学校間連携推進地域連絡会において研究成果の発表

- 開催日 平成16年2月12日(木)
- 対象 竹田教育事務所管内の各小中学校校長

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

【新規校・継続校】	1 5 年度からの新規校	1 4 年度からの継続校		
【学校規模】	6 学級以下	7 ~ 1 2 学級		
	1 3 ~ 1 8 学級	1 9 ~ 2 4 学級		
	2 5 学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T . T による指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	